

総会報告

第11回定時総会報告

日 時：令和3年3月23日(火)13時00分～14時30分
 会 場：オンライン開催（ホスト：RSI事務局会議室）
 出席代議員数：58名（内委任状12名）
 （代議員数総数：59名、総会成立の定数30名以上）

議 案：

- (1) 令和2年度事業報告 【第1号議案】
- (2) 令和2年度決算報告 【第2号議案】
- (3) 令和3年度事業計画 【報告資料1】
- (4) 令和3年度予算計画 【報告資料2】
- (5) 令和3年度役員の内 【第3号議案】

議 事：

午後1時00分、定款第15号に基づき浅田 稔会長が議長となり、出席者が定款17条に定める定足数に達しているとの旨報告の上、第11回定時総会の開会を宣した。

次いで、以下の各議案について提案および詳細な説明があり、逐次審議を行った結果、いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

【第1号議案】

令和2年度 事業報告

（自 令和2年1月1日 至 令和2年12月31日）

I. シンポジウム（継続事業1）[担当：事業理事/学術講演会理事]

1. ロボット教育セミナー

例年同様、小学生を対象とした「からくり工作教室」を企画していたが、コロナ禍の影響を鑑み、本年度は実施を見送った。

2. 学術講演会オープンフォーラム

第38回学術講演会にて開催を検討していたが、オンライン開催となったため、本年度は実施を見送った。

II. 学会誌（継続事業2）[担当：学会誌理事]（定款第4条2号）

学会誌第38巻1号～10号を発行し、会員に配布した。各号の特集テーマは次のとおりである。

- 第38巻1号 ヒトとロボットの共生社会のための哲学・心理学・法学
- 第38巻2号 福祉ロボットの社会実装
- 第38巻3号 実災害現場に求められるロボット技術
- 第38巻4号 スポーツとロボティクス
- 第38巻5号 ロボットの国際標準化に立ち向かえ
- 第38巻6号 AIベースドロボットマニピュレーション最前線
- 第38巻7号 さがみロボット産業特区が育むロボットたち
- 第38巻8号 デザイン思考を取り入れたロボットの社会実装
- 第38巻9号 教育・技術開発の場としてのロボットコンテスト
- 第38巻10号 身体と環境の相互作用

2020年1月発行の第38巻第1号から、投稿論文が論文誌から切り離されて、完全オンライン化された。その分、会誌ページ数が減少すると予想されたため、いくつかの企画が立案された。第38巻1号では、瀬名先生による書き下ろしSF小説「鼓動」が掲載された。この小説のレイアウトについては、巻末側に縦書きレイアウトで掲載することとなり、学会誌としては、新しい試みとなった。また、ロボ学とのコラボレーション企画として、ロボット考学研究会の研究会合宿「ロボット・情報技術とプライバシー」の報告がロボ学に掲載された後、第38巻4号に、学会誌に掲載された。また、今年は、学生編集委員会を立ち上げ、学生メンバーが地域ごとに4つのグループに分かれて企画案を練った。現在、新型コロナの影響で活動が制限されていることから、まずはオンラインでインタビューを行い、可能な範囲で、企業訪問等も行った。さらに、学術講演会の特別講演で登壇された瀬名先生に対し、学生編集委員のメンバーによるインタビュー記事の作成も行った。

一般投稿論文については、年間の論文投稿件数は132件（2019年度

44件、2018年度39件）、判定結果は採録可48%（2019年度は63%、2018年度45%）であった。論文投稿数は近年減少し続けてきたが、後述のレター同時投稿(82件)が追加されたため、投稿件数は大幅増となった。判定までの期間は平均99日（2019年度139日）、最短41日、最長219日で、掲載までの期間は平均251日（2019年度250日）であった。なお、評価項目の割合は、新規性44%（2019年度29%）、有用性39%（同52%）、提案性17%（同19%）となっている。

一方、学術講演会では、例年同様、学会誌への投稿をエンカレッジするため、学術講演会においてオープンフォーラム「論文投稿の勧め」を企画していた。このフォーラムは、毎年昼食時に開催し、企業への寄付により先着100名にお弁当を無料で配布することで、これまで、多くの参加者が集まった。しかしながら、2020年の学術講演会は、オンライン開催となったため、この企画はなくなった。

また、今回の学術講演会で新しい試みとなったレター同時投稿は、結果として82本の投稿があった。速報性を有するレターは、基本的には14日以内に査読することとなっており、82本すべてを通常の論文査読委員で対応することは困難であることから、投稿されたレターに対応する発表の座長を中心に査読依頼が行われた。

最後に、広告の年度集計結果に関しては、件数は60件（2019年度60件）、金額は6,027,264円（2019年度6,152,462円）であり、年間目標金額400万円に対して目標を大きく上回った。

III. 欧文誌（継続事業3）[担当：欧文誌理事]（定款第4条2号）

Editor in Chiefを細田耕教授（大阪大学）が担当し、Advanced Roboticsの安定した発展を維持させつつ、時流に即した新しい取り組みを行っている。

1. 欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

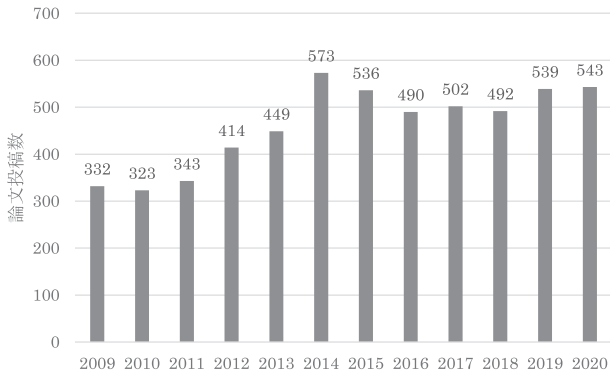
Vol.34を発行した。各号の詳細は以下のとおりである。

34/1	2020	Jan	Cyborg and Bionic System II (6 papers)
34/2	Jan	Disaster Response Robot—Selected Papers from WRS 2018 (5 papers)	
34/3-4	Feb	Service Robots Technology—Selected Papers from WRS 2018 (8 papers)	
34/5	Mar	Regular Issue (5 papers)	
34/6	Mar	Regular Issue (5 papers)	
34/7-8	Apr	Industrial Robot Technology—Selected Papers from WRS 2018 (10 papers)	
34/9	May	Regular Issue (5 papers)	
34/10	May	Regular Issue (5 papers)	
34/11	Jun	Disaster Robotics—IMPACT Tough Robotics Challenge (6 papers)	
34/12	Jun	Regular Issue (4 papers)	
34/13	Jul	Robot Learning (7 papers)	
34/14	Jul	Regular Issue (3 papers)	
34/15	Aug	Neuro-Robotics: From Brain Machine Interfaces to Rehabilitation Robotics (5 papers)	
34/16	Aug	Regular Issue (4 papers)	
34/17	Sep	Adaptive Motion of Animals and Machines (4 papers)	
34/18	Sep	Regular Issue (4 papers)	
34/19	Oct	Regular Issue (5 papers)	
34/20	Oct	Robot and Human Interactive Communication 2020 (4 papers)	
34/21-22	Nov	Humanoid Robotics—From Back-to-basics to Cutting-edge (10 papers)	
34/23	Dec	Regular Issue (4 papers)	
34/24	Dec	Robot and Human Interactive Communication 2020 (Part II) (4 papers)	

2. 論文の投稿、査読の状況

2020年における年間論文投稿総数は543件（新規投稿論文・376件、再投稿論文・167件）であった（下表参照）。数年にわたって、論文投稿総数は500件程度で安定している状況である。近年、Editorリジェクトを積極的に実施することで、質の高い論文のみを査読者に回すような取り組みを行っており、また全投稿論文に対してCrossCheck™ softwareが活用され、剽窃の事前チェックを行っている。

なお、2020年度の投稿から第1回目のディシジョンまでの期間は平均で53.27日であった（2019年度は62.18日、2018年度は76.03日、2017年度は68.56日、2016年度は61.57日、2015年度は66.7日）。これまで90日を目標にしてきているが、SchlorOneの導入の効果もあり目標を5年以上連続で達成している。多くの投稿論文は2回目の査読で採録の可否が決まるため、投稿から最終ディシジョンまでの平均日数は91.68日となっている。2020年度の投稿論文の採択率は、28.83%であった。今後も査読期間の短縮に努めていく。

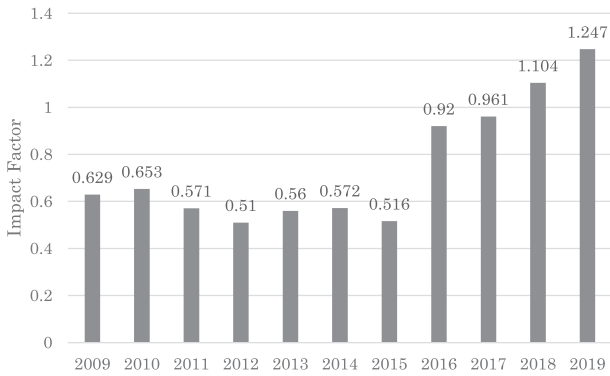


3. 企画／編集／発行作業

昨年度・今年度と、ロボティクスシンポジアの同時投稿オプションを企画し、発表者への論文投稿を呼びかける活動や多くの特集号企画を行っている。

4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index (インパクトファクタ) の推移を以下に示す。2016 年にてインパクトファクタが 0.920 に大幅に上昇し、その後の継続的に上昇し 2018 年においては 1.104 と、初めて 1.0 を上回る値を達成した。さらに 2019 年のインパクトファクタは 1.247 に向上した。今後も Taylor & Francis 社との連携を通して、戦略的にこれを上昇させることを検討する。以前より検討を行っている Review paper の増加や、また引用の多い論文数件の Open Access 化、魅力ある特集号の企画等を実施する。



5. 共同事業者である Taylor & Francis 社との契約内容の更新・交渉

以下のような契約内容(2019 年度の契約内容と同じ)で更新を行った。
2020 年 (Vol. 34) 年間発行数: 24 号

1. 会員全員の電子購読料金 15,000 ユーロ/年
2. RSJ へ支払われる編集料 20,000 ユーロ/年
3. AR ベストペーパー賞金 1,000 ユーロ/年

採択された投稿論文は、掲載号発行前に Taylor and Francis により電子出版され、閲覧・引用が可能となっている。採択決定から電子出版までは、早ければ 1 ヶ月以内で対応可能である。

IV. 調査・研究 (継続事業 4) [担当: 企画・広報理事] (定款第 4 条 3 号)

前年度から継続して、以下の調査・研究専門委員会活動を実施した。

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	種別
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稲谷龍彦	2020 年 4 月	I 種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅 久	2020 年 4 月	I 種
遊びとロボット研究専門委員会	橋本秀紀	2017 年 5 月	I 種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017 年 4 月	I 種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017 年 4 月	I 種
ソフトロボティクス研究専門委員会※	新山龍馬	2017 年 4 月	II 種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014 年 9 月	I 種

インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014 年 8 月	II 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	I 種
ヒューロビント研究専門委員会	横田 論	2009 年 4 月	I 種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	荒田純平	2008 年 4 月	I 種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008 年 4 月	I 種
空間知能化研究専門委員会	李周 浩	2007 年 1 月	II 種

(2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
新型コロナウイルス感染症に対する医療現場・生活環境の保全を支援するロボット技術の社会実装調査研究委員会	本田幸夫	2020 年 9 月
アカデミックロボットベンチャー調査研究委員会	岩田君彦	2020 年 1 月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015 年 1 月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013 年 5 月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013 年 1 月

(3) 技術・カテゴリー別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015 年 4 月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013 年 10 月

V. 表彰 (継続事業 5) [担当: 企画・広報理事] (定款第 4 条 4 号)

2020 年 10 月第 38 回学術講演会において、学会誌論文賞 3 件、Advanced Robotics Paper Awards 4 件 (Best Paper Award 1 件, Excellent Paper Award 3 件)、実用化技術賞 2 件、優秀研究・技術賞 7 件、優秀講演賞 7 件、研究奨励賞 10 件、ロボティクスシンポジア研究奨励賞 2 件、International Session Best Presentation Award 3 件、ロボット活用社会貢献賞 2 件、功労賞 2 件の表彰を行った。また、2019 年に新設した「優秀学生賞」の第 1 回表彰を 2020 年 3 月に行い、33 名に授与した。なお、Advanced Robotics Best Paper Award に関しては、Taylor and Francis から提案された賞金を授与した。

1. 学会誌論文賞

- (1) マルチコプタを活用した架空配電線工事におけるローブ延線作業 (日本ロボット学会誌第 36 巻第 8 号, pp. 525-536)
武本純平 ((株)関電工), 於保健一 ((株)関電工), 三浦一樹 ((株)関電工), 小林竜一 ((株)関電工), 大田和健 ((株)関電工)
- (2) 等身大ヒューマノイド用防水スーツの開発とオンライン浮力推定および着地位置修正による水中歩行制御 (日本ロボット学会誌第 37 巻第 5 号, pp. 427-437)
小椎尾侑多 (東京大学), 野沢峻一 (東京大学), 菅井文仁 (東京大学), 垣内洋平 (東京大学), 岡田 慧 (東京大学), 稲葉雅幸 (東京大学)
- (3) 接触時に発生する力波形を用いた遠隔操縦システムにおける硬さ表現方法 (日本ロボット学会誌第 37 巻第 10 号, pp. 975-984)
齋藤靖之 (東京工業大学), 只野耕太郎 (東京工業大学)

2. Advanced Robotics Paper Awards

2-1 Advanced Robotics Best Paper Award

- (1) Biohybrid device with antagonistic skeletal muscle tissue for measurement of contractile force (Advanced Robotics Vol. 33 No. 5, pp. 208-218)
Yuya Morimoto (The University of Tokyo), Hiroaki Onoe (The University of Tokyo), Shoji Takeuchi (The University of Tokyo)

2-2 Advanced Robotics Excellent Paper Award

- (1) Key design parameters of a few types of electro-hydrostatic actuators for humanoid robots (Advanced Robotics Vol. 32 No. 23, pp. 1241-1252)

- Tianyi Ko (The University of Tokyo), Hiroshi Kaminaga (The University of Tokyo), Yoshihiko Nakamura (The University of Tokyo)
- (2) Trajectory adjustment for nonprehensile manipulation using latent space of trained sequence-to-sequence model
(Advanced Robotics Vol. 33 No. 21, pp. 1144-1154)
Kyo Kutsuzawa (Tohoku University), Sho Sakaino (University of Tsukuba), Toshiaki Tsuji (Saitama University)
- (3) A framework for robotic clothing assistance by imitation learning
(Advanced Robotics Vol. 33 No. 22, pp. 1156-1174)
Ravi Prakash Joshi (Kyushu Institute of Technology), Nishanth Koganti (Nara Institute of Science and Technology), Tomohiro Shibata (Kyushu Institute of Technology)
3. 実用化技術賞
- (1) 追従走行技術を用いたロボティックモビリティの開発
安藤 健 (パナソニック(株)), 石川武志 (パナソニックプロダクションエンジニアリング(株)), 廣瀬元紀 (パナソニックプロダクションエンジニアリング(株)), 永田貴之 (パナソニックプロダクションエンジニアリング(株)), 重兼聡夫 (パナソニックプロダクションエンジニアリング(株)), 鈴木亮矢 (パナソニックプロダクションエンジニアリング(株)), 笹井裕之 (パナソニック(株)), 上松弘幸 (パナソニック(株)), グエン ジュイヒン (パナソニック(株)), 今岡紀章 (パナソニック(株))
- (2) 既存 AGV を超える特長を持った協働運搬ロボット「サウザー」
大島 章 ((株)Doog), 城吉宏泰 (Doog International Pte. Ltd.), 柄川 索 ((株)Doog), 松下裕介 ((株)Doog), 阪東 茂 ((株)Doog)
4. 優秀研究・技術賞
- (1) 齋藤 真 (名古屋大学), 佐久間臣耶 (名古屋大学), 笠井有佑 (名古屋大学), 新井史人 (名古屋大学)
超高速流体制御を用いた層流領域での非対称流生成によるオンチップポンピング
(第 37 回日本ロボット学会学術講演会/1K1-01)
- (2) 山本晃弘 (日立製作所), 中村亮介 (日立製作所), 網野 梓 (日立製作所)
2つの移動形態に変形可能な移動ロボットの開発
(第 37 回日本ロボット学会学術講演会/1I3-01)
- (3) 吉光徹雄 (宇宙航空研究開発機構), 久保田孝 (宇宙航空研究開発機構)
小惑星探査ローバ MINERVA-II の運用
(第 37 回日本ロボット学会学術講演会/2L1-01)
- (4) ウェストフェクテル トーマス (東北大学), 大野和則 (東北大学/理研 AIP), プルタコ ベゼハ ネット ハヌフォ (東北大学), 小島匠太郎 (東北大学), 田所 論 (東北大学)
Large Scale Semantic Mapping Through Multi-modal Sensor Fusion
(第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3A2-03)
- (5) 趙 漢居 (東京大学), 岡田 慧 (東京大学), 稲葉雅幸 (東京大学)
推力偏向機構を有する多リンク系飛行ロボットの推力冗長自由度を利用した空中マニピュレーションの実現
(第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3E2-02)
- (6) 小山佳祐 (東京大学), 下条 誠 (東京大学), 妹尾 拓 (東京大学), 石川正俊 (東京大学)
小型・低摩擦アクチュエータ“MagLinkage”を用いた低衝撃・ノンストップ把持
(第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3E2-07)
- (7) 渡邊史朗 (名古屋大学), 室崎裕一 (名古屋大学), 新井史人 (名古屋大学)
新生児生体信号計測のためのワイドレンジ荷重計測システム
(第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3M3-01)
5. 優秀講演賞
- (1) 塚越秀行 (東京工業大学)
進行波を生成する自励振動式柔軟小型バルブ
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3D3-06
- (2) 大槻真嗣 (宇宙航空研究開発機構)
月面移動探査ローバ LEV の開発
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/2L1-03
- (3) 岩谷 靖 (弘前大学)
サーボスフィアの高速度ビジュアルサーボ
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3N3-06
- (4) 大石修士 (産業技術総合研究所)
対称性保持非剛体 ICP による全周形状復元
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/1L1-06
- (5) 横塚将志 (産業技術総合研究所)
分岐限定法及び先取限定法による 2 次元スキャンマッチング SLAM
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/1H2-01
- (6) 小林正啓 (大阪弁護士会)
サービスロボット導入と社会的合意形成について
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/2C1-03
- (7) 松浦和也 (東洋大学)
呪われた孤児としての現存せざるロボット
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/2C2-03
6. 研究奨励賞
- (1) 上野安澄 (東京農工大学)
人間同士の身体接触再現を目指したロボットハンドの官能評価
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3F3-03
- (2) 岡島正太郎 (理化学研究所)
高密度 sEMG センサを用いた横断的 sEMG 解析による相対的筋一皮層間遷移の定量化の検討
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3C2-06
- (3) 河原塚健人 (東京大学)
深層学習を用いた関節トルク入力による動的な柔軟物体操作
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/1A2-06
Musculoskeletal AutoEncoder: 筋骨格ヒューマノイドの状態推定・制御・シミュレーションを統合的に扱う筋骨格センサ間ネットワークのオンライン獲得手法
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3B3-06
- (4) 齋藤 真 (名古屋大学)
超高速流体制御を用いた層流領域での非対称流生成によるオンチップポンピング
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/1K1-01
- (5) 趙 漢居 (東京大学)
推力偏向機構を有する多リンク系飛行ロボットの推力冗長自由度を利用した空中マニピュレーションの実現
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3E2-02
- (6) 津村遼介 (早稲田大学)
下腹部を対象とした極細針による CT ガイド下穿刺プランニング
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/3M2-06
- (7) 西尾卓純 (東京大学)
天井効果モデルを考慮した自律移動型マルチロータ機の構造物近傍点検飛行における目標追従性能向上に関する研究
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/1M1-05
- (8) 村田裕真 (東京工業大学)
Long-mover: 配管内の長距離移動を目指した柔軟チューブ型ロボット 第 4 報: 垂直管と分岐管での移動方法
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/1G1-05
- (9) 山田文香 (東京大学)
体操あん馬旋回運動の接触条件の定式化に基づく最適制御
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/1J3-03
- (10) 萬 礼応 (慶應義塾大学)
複数台ロボットによる喫茶店業務実践と評価
第 37 回日本ロボット学会学術講演会/2K2-05
7. ロボティクスシンポジウム研究奨励賞
- (1) 森野弘大 (金沢大学)
ピンピッキングおよび柔軟物のピッキングを目的とした受動引き込み機構を有するグリッパの開発
第 25 回ロボティクスシンポジウム/1A4
- (2) 木村航平 (東京大学)
安定余裕最大化と転倒防止機能に基づく二脚ロボットの受動車輪を活用した遊脚の存在しない移動法
第 25 回ロボティクスシンポジウム/4A2

8. International Session Best Presentation Award

- (1) Ruishuang Liu (Osaka University)
Planning 3D Robotic Drawing
38th RSJ2020/I13-01
- (2) Denis Bryan Peña Pachamango (University of Tsukuba)
Combining Facial and Thermal Expressions Affects the Human Perception of the Robot's Emotional State
38th RSJ2020/I12-03
- (3) Raul Ariel Duran Jimenez (Kyushu Institute of Technology)
A Study on a Low-Cost Soft Robotic Hand Grip Operated by a Smart Skin
38th RSJ2020/I12-02

9. ロボット活用社会貢献賞

- (1) システムインテグレート企業 (SIer) を東ねる組織設立とその運用によるロボットシステムの利活用拡大に対する貢献
FA・ロボットシステムインテグレート協会
- (2) ArtecRoboによる未来のロボット技術者の育成への貢献
(株)アーテック

10. 功労賞

- (1) 日本ロボット学会の情報発信メディアの改革
山本晃生 (東京大学)
- (2) 共催国際会議に対する日本ロボット学会貢献事業の強化
中臺一博 (茨城大学)

11. 優秀学生賞

- | | |
|-------|---|
| 宮下和太 | (大阪大学工学部応用理工学機械工学科) |
| 田口進太郎 | (大阪工業大学工学部ロボット工学科) |
| 松岡凌平 | (岡山大学工学部機械システム系学科) |
| 大山大貴 | (神奈川工科大学創造工学部ロボット・メカトロニクス学科) |
| 田島壮太 | (金沢大学理工学域機械工学科) |
| 山本悠加 | (北九州工業高等専門学校生産デザイン工学専攻) |
| 章 可柔 | (京都大学工学部物理工学科) |
| 矢野翔平 | (近畿大学工学部ロボティクス学科) |
| 前野大輝 | (岐阜大学工学部機械工学科) |
| 望月竣介 | (慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科) |
| 越邑優司 | (工学院大学機械システム工学科) |
| 武田賢成 | (工学院大学情報学部システム数理工学科) |
| 高田凱成 | (芝浦工業大学工学部電気工学科) |
| 黒川 遼 | (首都大学東京システムデザイン学部システムデザイン学科知能機械システムコース) |
| 川崎聖大 | (千葉工業大学未来ロボティクス学科) |
| 丸山岳嗣 | (中央大学理工学部精密機械工学科) |
| 伊勢直希 | (筑波大学理工学群工学システム学類) |
| 小原博樹 | (電気通信大学情報理工学域2類(融合系)) |
| 茶田智来 | (東京大学工学部精密工学科) |
| 池村一成 | (東京工科大学工学部機械工学科) |
| 原田夏輝 | (東京工業大学工学院機械系) |
| 林 拓臣 | (東京工業大学工学院システム制御系) |
| 山田一輝 | (東洋大学理工学部機械工学科) |
| 小竹 諒 | (富山県立大学工学部知能ロボット工学科) |
| 中村 舜 | (名古屋大学工学部機械・航空工学科) |
| 木村 仁 | (北海道大学工学部情報エレクトロニクス学科電気制御システムコース) |
| 國安宗也 | (室蘭工業大学機械航空創造系学科機械システム工学コース) |
| 笹井大和 | (名城大学理工学部メカトロニクス工学科) |
| 升本和成 | (山形大学工学部機械システム工学科) |
| 平木友香里 | (横浜国立大学 理工学部機械工学・材料系学科機械工学EP) |
| 入江拓実 | (立命館大学理工学部ロボティクス学科) |
| 立村啓樹 | (和歌山大学システム工学部システム工学科) |
| 佐武陸史 | (早稲田大学創造理工学部総合機械工学科) |

VI. 国際(継続事業6) [担当: 国際理事] (定款第4条5号)

1. 国際委員会活動

国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にしてRSJの国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための

戦略を策定し実施するための委員会として活動している。今年度もこれまでの活動を継続し、

- ・国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス、
- ・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み、
- ・Pacific-Asia Robotics Society Union (PARSU) をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化

の三つを柱に活動を行った。

2. 第38回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

10月9～11日にオンラインにて開催された第38回日本ロボット学会学術講演会において、例年どおりセッションの司会、発表、質疑応答のすべてが英語で行われる「国際セッション」を設けた。発表者には日本に滞在する留学生・研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を外国の人々に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、こういった場を提供する意義は大きい。

今年度の第38回日本ロボット学会学術講演会においては、以下の三つのトピックについて三つの時間帯(スロット)での発表が行われた。

- ・IS1 (10/9): Robotics x AI 5件
 - ・IS2 (10/9): Social Robotics and Human-Robot Interaction 4件
 - ・IS3 (10/9): Robotics, mechatronics and control 4件
- (合計13件)

2012～2019年の論文発表件数はそれぞれ、41件、26件、27件、16件、23件、14件、19件、31件となっている。今年度は、オンライン開催の影響もあり発表件数は伸びなかったが、セッションへの参加者は例年よりも多く、議論も活発に行われた。しかしながら、今後さらに国際セッションを盛り上げていくためには、国際担当理事だけでなく、国際委員にセッションを企画していただくなど、一層のテコ入れが必要と考える。また、国際セッションでの優秀な発表を対象にした賞(International Session Best Presentation Award)1件の授与と、Finalist2件の授与を行った。

3. 国際交流活動

IROS 2020 会期中に、アジア+オセアニアのロボット系学会の会長が年に1度集まって情報交換する場である The 15th Pacific-Asia Robotics Society Union Summit Meeting を KROS 主催で開催する予定であったが、IROS2020のオンライン開催に伴い、KROSと協議のうえ、IROS2021における開催に延期することとした。

4. 国際会議への対応

RSJが共催となっているRO-MANとIROSに対し、以下のような活動を行った。

- (1) 29th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2020)
期 間: 2020年8月31日～9月4日、オンライン開催
9月1日にステアリング会議が開催され、ロボット学会からは、会長、国際担当理事2名、事務局長1名が出席し、スポンサー学会の体制や今後の開催計画などを確認した。また本会議では、RSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Awardの授与を行った。RSJの立場からRO-MANを活性化することを目的とし、昨年に引き続きAdvanced Robotics誌でRO-MAN特集号を企画した。現在投稿された論文の査読を進めている。
- (2) 2020 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2020)
期 間: 2020年10月25日～2021年1月24日、オンデマンド開催
(a) 10月24日、IROS Advisory/Steering Committee Meetingが開催され、RSJからは会長1名、副会長1名、国際担当理事3名、事務局長1名が参加し、今後の開催体制や開催計画などを確認した。
 - コロナ渦でのIROSの開催の形態について議論があった。IROS2020は、オンデマンドかつ参加費無料としたが、この効果が特に産業界からの参加者増大という効果を生んでいる。今後、同様の形態で開催することは考えられないが、引き続きIROSの在り方を議論していく。
 - IROS2021の開催形態および予算、京都で開催される

IROS2022の予算について議論があった。

今後も継続して、IROSでの当学会の存在感を根付かせることを目標に、Advisory/Steering Committee Meetingへの継続的な参加を図ることとした。

- (b) 産学連携を目的としたRSJ-IAC Lunch (RSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration)の企画を進めたが、IROS2020のオンライン開催決定に伴い、実施形態や効果を検討した結果、今年の開催を見送ることとした。
- (c) RSJ Tutorialを企画開催した。今年はオンデマンドの開催ということで、ビデオによるチュートリアルを実施した。チュートリアルは、“Tutorial on Deep Probabilistic Generative Models for Robotics” (<https://sites.google.com/view/dpgmfr/home>)と題し、近年機械学習の分野で注目を集めている深層確率的生成モデルをロボットに応用することを主眼とした内容である。4名の研究者にチュートリアル講演を依頼した。そのうち2件は理論に関するものであり、深層確率的生成モデルの理論から、ロボットの行動計画への応用まで、多様な視点で丁寧に解説いただいた。さらに2件の講演は、深層確率的生成モデルを実際に利用するためのツールに関するものであり、初学者がこれから学ぶためにも、既学者が実際に応用するためにも非常に有用な情報提供の場となった。こうしたロボット分野への機械学習理論・ツールの紹介は、ロボット分野の活性化、技術の底上げにつながるため、今後も継続したい。

5. 英文誌特集号企画への参画

本年度は、コロナ禍で国際的な活動が制限される状況が続いた。そうした中で国際的活動の新たな試みとして、英文誌特集号企画への参画を行った。具体的には、Advanced Robotics誌の特集号の企画である“Special Issue on Symbol Emergence in Robotics and Cognitive Systems” (<https://si-ar.emergent-symbolsystems/>)の企画立案とGuest editorへ参画した。また、本特集号の企画として実施されたラウンドテーブルに参加した。 <http://btcc.nagoya.riken.jp/RoundTable/>

6. 国際会議共催/協賛

共催となっているRO-MANおよびIROSを含め、本会に関連する国際会議を共催(2件)、協賛(10件)した(2020年1月～12月31日審査分)。

Ⅶ. 学術講演会(その他事業1)[担当:学術講演会理事](定款第4条1号)

1. 学術講演会

(1) 第38回学術講演会

第38回学術講演会はコロナ禍の影響で当初計画していた信州大学での開催を1年延期し、実行委員会を理事会中心で新たに構成し、オンラインにて開催した。

期 日:2020年10月9日(金)～11日(日)

会 場:Zoom ミーティングを利用したオンライン開催

実行委員長:浅田 稔(会長/大阪大学)

プログラム委員長:鈴木 智(千葉大学)

【発表件数:515件】

一般セッション:45件

オーガナイズドセッション:41件

International Session:3件

スポンサー企業:12件(プラチナ:3件, ゴールド:6件, シルバー:3件)

特別講演:

(1) 講 師:浅田 稔氏(会長/大阪大学)

タイトル:「再考(最高?):ロボット学」

(2) 講 師:下條信輔氏(カリフォルニア工科大学 生物・生物工学部(計算神経系))

タイトル:「[来歴]論～意識, 身体, 創発～」

(3) 講 師:瀬名秀明氏(作家)

タイトル:「ロボティクスと総合知」

【参加者数:1,028名】

正会員/終身会員(事前):427名,(当日):40名

学生会員(事前):107名,(当日):6名

協賛後援団体一般会員(事前):54名,(当日):5名

協賛後援団体学生会員(事前):68名

一般非会員(事前):61名,(当日):9名

学生非会員(事前):215名,(当日):6名

優待券利用の賛助会員(事前):20名,(当日):1名

優待券非利用の賛助会員(事前):9名

Ⅷ. 講習会(その他事業2)[担当:事業理事](定款第4条1号)

1. ロボット工学セミナー

コロナ禍の影響を鑑み、本年度は全セミナーをオンラインでの開催とした。

(1) 第125回セミナー「物流ロボットにおける物体認識技術とハンドリング技術の最前線」

期日:2020年4月24日(金) オンライン開催

講師:小野塚征志(ローランド・ベルガー), 徐 剛(Kyoto Robotics(株)), 橋本 学(中京大学), 平井慎一(立命館大学)

オーガナイザー: 栗原伸明(アイシン精機(株))

参加者:86組(会員・協賛:個人45名/10人以上10組, 会員外:個人17名/10人以上3組/11人以上2組)

(2) 第126回セミナー「ロボットのための画像処理技術」

期日:2020年5月22日(金) オンライン開催

講師:内田祐介(Mobility Technologies), 内山英昭(九州大学), 櫻田 健(産業技術総合研究所), 千葉直也(早稲田大学/オムロンサイニクエックス)

オーガナイザー: 牛久祥孝(OSX/Ridge-i)

参加者:189名(会員・協賛93名, 会員外:89名, 賛助招待:7名)

(3) 第127回セミナー「生物の多脚歩行と多脚歩行ロボットの制御技術」

期日:2020年7月6日(月) オンライン開催

講師:安部祐一(東北大学), 石黒章夫(東北大学), 小林泰介(奈良先端科学技術大学院大学), 細田耕(大阪大学), 和田直己(山口大学)

オーガナイザー: 一瀬秀行(日立製作所)

参加者:82名(会員・協賛:31名, 会員・協賛(学生):20名, 会員外:13名, 会員外(学生):14名, 賛助招待:2名, 賛助優待:2名)

(4) 第128回セミナー「ソフトロボットのこれまでとこれから」

期日:2020年9月10日(木) オンライン開催

講師:新山龍馬(東京大学), 望山 洋(筑波大学), 川村貞夫(立命館大学), 高木賢太郎(豊橋技術科学大学), 脇元修一(岡山大学), 鈴森康一(東京工業大学)

オーガナイザー: 外屋 賢(東京工業大学)

参加者:114名(会員・協賛:60名, 会員・協賛(学生):13名, 会員外:20名, 会員外(学生):10名, 賛助招待:4名, 賛助優待:7名)

(5) 第129回セミナー「福島復興で活躍するロボット」

期日:2020年10月21日(水) オンライン開催

講師:浅間 一(東京大学), 新井民夫(国際廃炉研究開発機構), 佐藤優樹(日本原子力研究開発機構), 眞田幸尚(日本原子力研究開発機構)

見学: 福島遠隔技術開発センター

オーガナイザー: 山田大地(日本原子力研究開発機構)

参加者:45名(会員・協賛:25名, 会員・協賛(学生):4名, 会員外:5名, 会員外(学生):8名, 賛助招待:2名, 賛助優待:1名)

(6) 第130回セミナー「宇宙開発を支えるロボット技術の最前線」

期日:2020年11月27日(金) オンライン開催

講師:小野雅裕(NASA/JPL), 田中克明(ispace), 加藤祐基(JAXA), 伊藤美樹(アストロスケール)

オーガナイザー: 永岡健司(九州工業大学)

参加者:66名(会員・協賛:19名, 会員・協賛(学生):12名, 会員外:12名, 会員外(学生):16名, 賛助招待:6名, 賛助優待:1名)

2. 共催事業

本会に関連する国内行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援について審査を行った。共催7件, 協賛62件, 後援17件協力1件(2020年1月1日～12月31日審査分)

主な国内共催事業：

- (1) 第25回ロボティクスシンポジア (2020年3月15日(日), 16日(月))
- (2) ロボカップジャパンオープン2020 (2020年10月30日(金)～11月1日(日)および2020年12月19日(土), 20日(日))
- (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2020 (中止)
- (4) 第20回レスキューロボットコンテスト (延期)
- (5) つくばチャレンジ2020本走行 (中止)

5. 運営報告会, 理事会

- (1) コロナ禍の影響を鑑み, 本年度は運営報告会の開催を見送り, 会務報告をオンライン公開とした。
- (2) 令和2年度中に10回の理事会を開催し, 会務の審理と処理を行った。

6. フェローの選任

4名のフェローを選任した。

7. 学会の基盤強化

今年度も, 理事会・各種委員会で, 個人会員および賛助会員の増大を目指し, 各種改善施策の推進・実施に務めたが, 賛助会員数は増加したものの, 個人会員数は減少傾向となった。会員数の増強に関しては, 引き続き努力中であり, 継続が必要である。

今年度はCOVID-19の世界的感染拡大により事業の形態がオンラインへと大きく変化することとなった。かつてない事態に対し, 手探りの状態から事業の継続に努め, 徐々にノウハウや知見が蓄積しつつある。来年度は基盤強化, 事業拡大に向けて活動を強化する。

8. 学会の社会的価値・サービスの向上

COVID-19の影響下で第38回学術講演会を理事会メンバー主体の構成で初の完全オンラインで実施し, 無事実施することができた。この中で, 各スポンサーへ期間中のZoomルームを提供する等の新たな試みを実施した。また特別講演の延長として, 後日, 座談会をオンライン開催した。さらに本企画と連動した記事を会誌に掲載予定である。産学連携委員会では, FAロボットシステムインテグレーション協会との協働による連携事業の検討を始めた。論文施策検討WGでは, 学会誌の価値向上と学会の裾野拡大を目指し, 人文社会系の論文査読を行う体制等の施策につき検討を行った。新事業・財務改革検討WGではロボット工学セミナーのオンデマンド配信化等のサービス向上策を検討している。HP編集委員会では, 昨年改革した学会HP「ロボ學」を活用した情報発信を継続しており, 今後もコンテンツの充実を進める。さらに, COVID-19関連では, 医療・防疫活動への喫緊の支援や中長期的なポストコロナ社会維持に貢献するため, ロボティクス技術開発と社会実装を検討する調査研究委員会を新たに設置した。

IX. 法人処理 [担当: 庶務理事]

1. 会員状況

	令和2年12月31日 現在	令和元年12月31日 現在	増 減
名誉会員	10名	12名	2名減
正会員	2,890名	2,969名	79名減
学生会員A	245名	354名	109名減
学生会員B	512名	469名	43名増
終身会員	151名	140名	11名増
会員総数	3,808名	3,944名	136名減
賛助会員	101団体(123口)	96団体(118口)	5団体増(5口増)

2. 総会

(1) 第10回定時総会

会期: 令和2年3月19日(木)

会場: 日本ロボット学会事務局会議室 (オンライン併催)

出席代議員数: 58名 (うち委任状提出: 35名)

(代議員総数: 59名, 総会成立の定数30名以上, 議題の可決に必要な出席代議員数40名以上)

議題: 平成31年(令和元年)度の事業報告・決算報告, 令和2年度の事業計画・予算計画, 令和2年度役員の選任, 名誉会員の選出, 会員除名, 以上について審議し, 議決した。

3. 委員会

下記の委員会を開催した。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月)
会誌編集委員会	山本晃生	永谷圭司
欧文誌委員会	和田正義	武居直行
事業計画委員会	辻 俊明	新妻実保子
国際委員会	稲邑哲也	田中文英
研究協議会	松野文俊	松野文俊
学術講演会実行委員会	岩田浩康 (37回)	浅田 稔 (38回)
表彰委員会	村上弘記	村上弘記
学会誌論文賞選考小委員会	村上弘記	松野文俊
Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	村上弘記	村上弘記
実用化技術賞選考小委員会	松野文俊	村上弘記
功労賞選考小委員会	村上弘記	村上弘記
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	松野文俊	松野文俊
研究奨励賞選考小委員会	村上弘記	村上弘記
ロボティクスシンポジア研究奨励賞選考小委員会	村上弘記	村上弘記
外部表彰選考小委員会	松野文俊	松野文俊
体制整備委員会	浅田 稔	浅田 稔
アドバイザーボード	浅田 稔	浅田 稔
コンプライアンス委員会	浅田 稔	浅田 稔
情報システム管理委員会	有坂寿洋	蓮沼仁志
学術講演会管理委員会	村上弘記	村上弘記
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	矢野 寛	岡田 聡
学会価値委員会	浅田 稔	浅田 稔
IRH 実行委員会	松野文俊	松野文俊

4. 役員の選出

令和2年度の理事・監事を選出した。

X. 事業報告に係る附属明細書 [担当: 庶務理事]

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

【第2号議案】

令和2年度 決算報告

貸借対照表
令和2年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	245,407,851	241,702,505	3,705,346
現金	3,715,141	3,673,791	41,350
普通預金	100,226,451	98,514,646	1,711,805
振替口座	6,973,801	5,032,953	1,940,848
通常貯金	989,529	989,521	8
定期預金	133,502,929	133,491,594	11,335
未収会費	1,844,400	2,228,800	△ 384,400
未収金	2,273,670	3,157,272	△ 883,602
前払金	959,598	625,168	334,430
立替金	36,300	0	36,300
仮払金	6,634,837	6,613,336	21,501
流動資産合計	257,156,656	254,327,081	2,829,575
2. 固定資産			
(1)特定資産			
退職給付引当資産	14,149,726	13,075,825	1,073,901
定期預金	21,000,000	21,000,000	0
特定資産合計	35,149,726	34,075,825	1,073,901
(2)その他固定資産			
電話加入権	153,100	153,100	0
敷金	63,000	63,000	0
保証金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固定資産合計	37,865,826	36,791,925	1,073,901
資産合計	295,022,482	291,119,006	3,903,476
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,784,284	2,620,012	△ 835,728
前受会費	20,498,000	22,667,600	△ 2,169,600
前受金	366,400	0	366,400
前受入金	3,000	6,000	△ 3,000
預り金	790,857	798,616	△ 7,759
仮受金	3,865,337	3,730,758	134,579
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	27,377,878	29,892,986	△ 2,515,108
2. 固定負債			
退職給付引当金	14,149,726	13,075,825	1,073,901
固定負債合計	14,149,726	13,075,825	1,073,901
負債合計	41,527,604	42,968,811	△ 1,441,207
III 正味財産の部			
一般正味財産	253,494,878	248,150,195	5,344,683
(うち特定資産への充当額)	(21,000,000)	(21,000,000)	(0)
正味財産合計	253,494,878	248,150,195	5,344,683
負債及び正味財産合計	295,022,482	291,119,006	3,903,476

貸借対照表内訳表
令和2年12月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	3,482,597	0	241,925,254	0	245,407,851
未収会費			1,844,400		1,844,400
未収金			2,273,670		2,273,670
前払金			959,598		959,598
立替金			36,300		36,300
仮払金			6,634,837	3,482,597	3,152,240
流動資産合計	3,482,597	0	253,674,059	3,482,597	253,674,059
2. 固定資産					
(1)特定資産					
退職給付引当資産	10,152,482	363,092	3,634,152		14,149,726
定期預金			21,000,000		21,000,000
流動資産合計	10,152,482	363,092	24,634,152	0	35,149,726
(2)その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷金			63,000		63,000
保証金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	10,228,746	388,297	27,248,783	0	37,865,826
資産合計	13,711,343	388,297	280,922,842	3,482,597	291,539,885
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			1,784,284		1,784,284
前受会費			20,498,000		20,498,000
前受金			366,400		366,400
前受入金			3,000		3,000
預り金			790,857		790,857
仮受金	3,482,597		382,740	3,482,597	382,740
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	3,482,597	0	23,895,281	3,482,597	23,895,281
2. 固定負債					
退職給付引当金	10,152,482	363,092	3,634,152		14,149,726
固定負債合計	10,152,482	363,092	3,634,152	0	14,149,726
負債合計	13,635,079	363,092	27,529,433	3,482,597	38,045,007
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469	0	0
III 正味財産の部					
一般正味財産	0	0	253,494,878	0	253,494,878
正味財産合計	0	0	253,494,878	0	253,494,878
負債及び正味財産合計	13,711,343	388,297	280,922,842	3,482,597	291,539,885

正味財産増減計算書

令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	109	101	8
特定資産受取利息	109	101	8
② 受取入金	75,000	95,000	△ 20,000
正会員受取入金	75,000	95,000	△ 20,000
学生会員受取入金	0	0	0
③ 受取会費	41,204,400	41,651,600	△ 447,200
正会員受取会費	28,910,000	29,490,000	△ 580,000
学生会員受取会費	1,974,400	2,401,600	△ 427,200
賛助会員受取会費	10,320,000	9,760,000	560,000
④ 事業収益	34,687,124	62,751,999	△ 28,064,875
参加費事業収益	15,795,000	21,353,000	△ 5,558,000
懇親会参加費事業収益	0	2,349,000	△ 2,349,000
展示料事業収益	2,310,000	14,228,000	△ 11,918,000
講演概要集広告料事業収益	0	270,000	△ 270,000
セミナー参加費事業収益	2,466,000	8,429,625	△ 5,963,625
会誌掲載料事業収益	4,665,100	5,889,480	△ 1,224,380
会誌広告料事業収益	5,681,324	6,550,562	△ 869,238
会誌頒布事業収益	1,395,500	1,348,332	47,168
編集料事業収益	2,374,200	2,334,000	40,200
⑤ 受取補助金等	0	65,000	△ 65,000
受取国庫補助金	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0
受取民間補助金	0	65,000	△ 65,000
⑥ 雑収益	12,092,787	20,695,685	△ 8,602,898
受取利息	13,887	13,632	255
雑収益	12,078,900	20,682,053	△ 8,603,153
経常収益計	88,059,420	125,259,385	△ 37,199,965
(2) 経常費用			
① 事業費	52,474,423	87,790,801	△ 35,316,378
給料手当	10,208,738	10,064,169	144,569
臨時雇賃金	4,144,126	3,863,615	280,511
退職給付費用	791,400	546,610	244,790
福利厚生費	1,592,837	1,594,298	△ 1,461
旅費交通費	400,472	2,824,994	△ 2,424,522
通信運搬費	4,041,418	4,150,386	△ 108,968
消耗什器備品費	106,660	318,360	△ 211,700
消耗品費	871,747	2,659,389	△ 1,787,642
印刷製本費	13,400,416	17,079,244	△ 3,678,828
賃借料	215,760	436,268	△ 220,508
諸謝金	2,223,037	1,869,154	353,883
租税公課	2,076,600	1,139,000	937,600
支払負担金	1,985,414	13,819,241	△ 11,833,827
委託費	8,199,920	21,534,393	△ 13,334,473
雑費	2,215,878	5,891,680	△ 3,675,802
② 管理費	30,170,314	30,313,227	△ 142,913
給料手当	9,468,371	9,396,637	71,734
臨時雇賃金	239,475	1,400,095	△ 1,160,620
退職給付費用	282,501	264,026	18,475
福利厚生費	1,450,398	1,496,260	△ 45,862
会議費	99,682	173,016	△ 73,334
旅費交通費	77,339	798,958	△ 721,619
通信運搬費	957,189	1,080,764	△ 123,575
消耗什器備品費	708,840	181,828	527,012
消耗品費	1,147,265	302,376	844,889
印刷製本費	512,892	466,707	46,185
光熱水料費	363,820	396,605	△ 32,785
賃借料	7,527,429	7,057,976	469,453
保険料	6,000	6,000	0
支払手数料	1,180,686	1,012,705	167,981
諸会費	342,269	343,274	△ 1,005

諸謝金	1,110,820	1,102,248	8,572
租税公課	66,900	61,000	5,900
委託費	2,639,163	2,729,133	△ 89,970
雑費	1,989,275	2,043,619	△ 54,344
経常費用計	82,644,737	118,104,028	△ 35,459,291
評価損益等調整前当期経常増減額	5,414,683	7,155,357	△ 1,740,674
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,414,683	7,155,357	△ 1,740,674
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	5,414,683	7,155,357	△ 1,740,674
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	5,344,683	7,085,357	△ 1,740,674
一般正味財産期首残高	248,150,195	241,064,838	7,085,357
一般正味財産期末残高	253,494,878	248,150,195	5,344,683
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	253,494,878	248,150,195	5,344,683

正味財産増減計算書内訳表
令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

No. 1 (単位：円)

科 目	実 施 事 業 等 会 計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受 取 入 会 金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入金								
学生会員受取入金								
受 取 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事 業 収 益	0	11,741,924	2,374,200	0	0	0	0	14,116,124
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演要集広告料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		4,665,100						4,665,100
会誌広告料事業収益		5,681,324						5,681,324
会誌頒布事業収益		1,395,500						1,395,500
編集料事業収益			2,374,200					2,374,200
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取民間補助金								
受 取 寄 付 金	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 寄 付 金								
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息								
雑 収 益								
経常収益計	0	11,741,924	2,374,200	0	0	0	0	14,116,124
(2) 経常費用								
事 業 費	33,543	25,099,674	5,251,734	864,473	7,600,060	134,320	0	38,983,804
給 料 手 当		5,289,561			4,197,365			9,486,926
臨 時 雇 賃 金		24,020		145,000				169,020
退職給付費用		435,370			327,780			763,150
福 利 厚 生 費		820,718			660,780			1,481,498
旅 費 交 通 費	33,543	91,342		41,150	58,290			224,325
通 信 運 搬 費		3,451,009		43,604	36,937	34,320		3,565,870
消耗什器備品費								
消 耗 品 費		271,602	12,980	2,067	387,866			674,515
印 刷 製 本 費		11,395,717			40,480			11,436,197
賃 借 料				90,030	24,200			114,230
諸 謝 金				258,072				258,072
租 税 公 課		575,500						575,500
支 払 負 担 金			1,879,950	11,074	37,150			1,928,174
委 託 費		2,734,265	3,358,804					6,093,069
雑 費		10,570		273,476	1,829,212	100,000		2,213,258
管 理 費	0	0	0	0	0	0	0	0
給 料 手 当								
臨 時 雇 賃 金								
退職給付費用								
福 利 厚 生 費								
会 議 費								
旅 費 交 通 費								
通 信 運 搬 費								
消耗什器備品費								
消 耗 品 費								
印 刷 製 本 費								

光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	33,543	25,099,674	5,251,734	864,473	7,600,060	134,320	0	38,983,804
評価損益等調整前 当期経常増減額	-33,543	-13,357,750	-2,877,534	-864,473	-7,600,060	-134,320	0	-24,867,680
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-33,543	-13,357,750	-2,877,534	-864,473	-7,600,060	-134,320	0	-24,867,680
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期 一般正味財産増減額	-33,543	-13,357,750	-2,877,534	-864,473	-7,600,060	-134,320	0	-24,867,680
他会計振替額	33,543	13,357,750	2,877,534	864,473	7,600,060	134,320	0	24,867,680
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0

正味財産増減計算書内訳表
令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

No. 2

(単位：円)

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	109	0	109
特定資産受取利息					109		109
受取入金会金	0	0	0	0	75,000	0	75,000
正会員受取入金会金					75,000		75,000
学生会員受取入金会金							
受取会費	0	0	0	0	41,204,400	0	41,204,400
正会員受取会費					28,910,000		28,910,000
学生会員受取会費					1,974,400		1,974,400
賛助会員受取会費					10,320,000		10,320,000
事業収益	18,105,000	2,466,000	0	20,571,000	0	0	34,687,124
申込金事業収益							
参加費事業収益	15,795,000			15,795,000			15,795,000
懇親会参加費事業収益							
展示料事業収益	2,310,000			2,310,000			2,310,000
講演概要集 広告料事業収益							
セミナー参加費事業収益		2,466,000		2,466,000			2,466,000
会誌掲載料事業収益							4,665,100
会誌広告料事業収益							5,681,324
会誌頒布事業収益							1,385,500
編集料事業収益							2,374,200
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	12,082,787	0	12,082,787
受取利息					13,887		13,887
雑収益					12,078,900		12,078,900
経常収益計	18,105,000	2,466,000	0	20,571,000	53,372,296	0	88,059,420
(2) 経常費用							
事業費	8,834,460	4,656,159	0	13,490,619	0	0	32,474,423
給料手当	721,812			721,812			10,208,738
臨時雇賃金	744,600	3,230,506		3,975,106			4,144,126
退職給付費用	28,250			28,250			791,400
福利厚生費	111,339			111,339			1,592,837
旅費交通費	176,147			176,147			400,472
通信運搬費	475,548			475,548			4,041,418
消耗什器備品費		106,660		106,660			106,660
消耗品費	126,690	70,542		197,232			871,747
印刷製本費	1,964,219			1,964,219			13,400,416
賃借料	101,530			101,530			215,760
諸謝金	1,056,854	908,111		1,964,965			2,223,037
租税公課	1,161,200	339,900		1,501,100			2,076,600
支払負担金	57,240			57,240			1,985,414
委託費	2,106,851			2,106,851			8,199,920
雑費	2180	440		2,620			2,215,878
管理費	0	0	0	0	30,170,314	0	30,170,314
給料手当					9,468,371		9,468,371
臨時雇賃金					239,475		239,475
退職給付費用					282,501		282,501
福利厚生費					1,450,398		1,450,398
会議費					99,682		99,682
旅費交通費					77,339		77,339
通信運搬費					957,189		957,189
消耗什器備品費					708,840		708,840
消耗品費					1,147,265		1,147,265

印刷製本費					512,892		512,892
光熱水料費					363,820		363,820
賃借料					7,527,429		7,527,429
保険料					6,000		6,000
支払手数料					1,180,686		1,180,686
諸会費					342,269		342,269
諸謝金					1,110,820		1,110,820
租税公課					66,900		66,900
委託費					2,639,163		2,639,163
雑費					1,989,275		1,989,275
経常費用計	8,834,460	4,656,159	0	13,490,619	30,170,314	0	82,644,737
評価損益等調整前 当期経常増減額	9,270,540	-2,190,159	0	7,080,381	23,201,982	0	5,414,683
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	9,270,540	-2,190,159	0	7,080,381	23,201,982	0	5,414,683
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期 一般正味財産増減額	9,270,540	-2,190,159	0	7,080,381	23,201,982	0	5,414,683
他会計振替額	-9,270,540	2,190,159	0	-7,080,381	-17,787,299	0	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	5,414,683	0	5,414,683
法人税、住民税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	5,344,683	0	5,344,683
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	248,150,195	0	248,150,195
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	253,494,878	0	253,494,878
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	253,494,878	0	253,494,878

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 特定資産の増減額およびその残高

特定資産の増減額およびその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	13,075,825	1,073,901	0	14,149,726
定期預金	21,000,000	0	0	21,000,000
合 計	34,075,825	1,073,901	0	35,149,726

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	14,149,726	—	(0)	(14,149,726)
定期預金	21,000,000	(0)	(21,000,000)	—
合 計	35,149,726	(0)	(21,000,000)	(14,149,726)

附属明細書

1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額およびその残高」に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	13,075,825	1,073,901	0	0	14,149,726

お 知 ら せ

財 産 目 録

令和2年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	3,715,141	
普通預金 三菱UFJ銀行本店	16,807,200	
〃 みずほ銀行本郷支店	28,983,435	
〃 りそな銀行本郷支店	27,586,884	
〃 三井住友銀行小石川支店	8,824,500	
〃 三井住友銀行小石川支店	18,024,432	
定期預金 三井住友銀行小石川支店	55,292,534	
〃 三菱UFJ信託銀行本店	60,138,711	
〃 みずほ銀行本郷支店	18,071,684	
振替口座 ゆうちょ銀行	6,973,801	
通常貯金 ゆうちょ銀行	989,529	
未収会費 令和2年度会費 276名	1,844,400	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	2,273,670	
前払金 令和3年1月分事務所家賃他	959,598	
立替金 ロボティクスシンポジウムWEBサーバー費用(SICE分)	36,300	
仮払金 IROS2020 Advanced Loan	3,152,240	
流動資産合計		253,674,059
2 固定資産		
(1) 特定資産		
退職給付引当資産(普通預金) 三菱UFJ銀行春日町支店	14,149,726	
定期預金 三菱UFJ銀行本店	21,000,000	
特定資産合計		35,149,726
(2) その他固定資産		
電話加入権 2本	153,100	
敷金 賃貸借契約敷金	63,000	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
その他固定資産合計		2,716,100
固定資産合計		37,865,826
資産合計		291,539,885
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 出版費・広告・別刷料(日本ロボット学会誌38-10)	1,353,176	
〃 人材派遣費12月分	285,271	
〃 税理士顧問料(11,12月分)	88,000	
〃 日本郵便(株)他	57,837	
前受会費 会費前受分	20,498,000	
前受金 ロボット工学セミナー参加費(第131・132回)	366,400	
前受入会金 入会金前受分	3,000	
預り金 源泉所得税	93,355	
〃 住民税	72,100	
〃 社会保険料	625,402	
仮受金 誤入金分他	382,740	
未払法人税等 令和2年分法人住民税	70,000	
流動負債合計		23,895,281
2 固定負債		
退職給付引当金 退職給付分	14,149,726	
固定負債合計		14,149,726
負債合計		38,045,007
正味財産		253,494,878

監 査 報 告

私たち監事は、令和2年1月1日から令和2年12月31日までの第十期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和3年2月11日
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 澤 俊裕 ㊟
監 事 松日樂信人 ㊟

【報告資料1】

令和3年度 事業計画

(自 令和3年1月1日 至 令和3年12月31日)

I. シンポジウム(継続事業1) [担当: 事業理事/学術講演会理事]

1. ロボット教育セミナー
 ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室(仮)」
 期日: 2021年7 or 8月(予定)
2. オープンフォーラム
 第39回学術講演会(信州大学, 2021年9月8日(水)~11日(土))
 にて, オープンフォーラム(無料・一般公開)を企画予定。

II. 学会誌(継続事業2) [担当: 学会誌理事] (定款第4条2号)

従来どおり, 学会誌全10号を, 1月, 3月, 4月, 5月, 6月, 7月, 9月, 10月, 11月, 12月に刊行し, 会員に配布する。なお, 各号の特集テーマは以下を予定している。

- 第39巻1号 ロボットと哲学
- 第39巻2号 NEDO 先端研究プログラム
- 第39巻3号 手術ロボットの社会実装
- 第39巻4号 3D プリンティングとロボティクス
- 第39巻5号 ロボットと言語(仮)
- 第39巻6号 極限環境作業ロボット(仮)
- 第39巻7号 強化学習(仮)
- 第39巻8号 ERATO 縮見プロジェクト(仮)
- 第39巻9号 慣性計測装置IMU(仮)
- 第39巻10号 XR技術とロボット(仮)

現在, 学会の Web ページで特集号の募集をしているものの, 会誌編集委員会の委員が企画したテーマがほとんどである。より多様な視点で話題性のある特集となるよう, 一般の会員へ特集号の募集を広く呼びかけ, 読者にとって魅力のある会誌を目指す。また, 会誌の内容を充実させるため, 学生編集委員会のメンバーが地域ごとに四つのグループに分かれて企画案を練っている。現在は, 新型コロナウイルスの影響で活動が制限されていることから, まずはオンラインでインタビューを行い, 感染拡大が落ち着いてから実際に訪問するという2段階の方式にすることなどを検討している。また, 学術講演会の特別講演で登壇された3名の先生方による討論会が開催予定であることから, 学生編集委員のメンバーによる登壇者のインタビュー記事の執筆も計画している。

今回の学術講演会で新しい試みとなったレター同時投稿は, 結果として82本の投稿があった。速報性を有するレターは, 基本的には14日以内に査読することになっており, 82本すべてを通常の論文査読委員で対応することは困難であることから, 投稿されたレターに対応する発表の座長を中心に査読依頼を行った。発表を聞いたうえで査読できるという利点があるものの, 改善すべき点もあるとの指摘もあることから, 2021年の学術講演会に向けて改善案の検討を進める。

広告に関しては, 収入目標を例年と同様400万円と設定し, 特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた取り組みを進める。

III. 欧文誌(継続事業3) [担当: 欧文誌理事] (定款第4条2号)

1. 欧文誌(Advanced Robotics)の発行計画

下記のとおり, 2021年度においては Vol. 35 を年24号発行することを計画している。

35/1-2	2021/Jan	Regular Issue
35/3-4	Feb	Intelligent Autonomous Systems
35/5	Mar	Embodied Haptic Technology for Human Augmentation
35/6	Mar	Regular Issue
35/7	Apr	Cyborg and Bionic System III
35/8	Apr	Regular Issue
35/9	May	Ethics, Law and Psychology towards Responsible Robotics for the Society
35/10-12	May-Jun	Regular Issue
35/13	Jul	Hyper-Adaptability for Overcoming Body-Brain Disfunction
35/14	Jul	Regular Issue
35/15-16	Aug	Selected papers from RO-MAN
35/17-20	Sep-Oct	Regular Issue
35/21	Nov	AI, Robotics and Automation in Space
35/22-24	Dec	Regular Issue

2. 編集体制

2021年度は, 細田耕編集長の下, シニアエディター8名および7名の欧文誌委員会メンバーを中心に, 査読小委員会, 国際編集委員, アドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら, 欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上, さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく。

3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2014年度から年間24号としたことで, 一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られており, 今後も採否決定までの期間90日を目標に出版を行っていく。Citation Index の評価(インパクトファクタ)において, 2018年度に1.104を達成し, さらに2019年度には1.247と着実に向上している。今後, インパクトファクタおよび国際的な認知度の更なる向上のため, 一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い, また引用の多い論文数件の Open Access 化等を実施する。さらに, 国際貢献の意味も含め, 海外の研究者をゲストエディタに含め国内外からの投稿数をさらに増大させていく。また, 学会価値委員会等において完全 Open Access 化や有料化について, その是非も含めて継続して検討を進めていく。

4. 国際化に向けての活動

主要な国際会議 IROS にあわせて, Best Paper Award の授賞式や国際編集委員会を開催し, 国際的認知度を高めるよう努力する。また国際貢献のために, ロボット学会の外国人会員の増加, 日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく。また, 国際委員会の活動に協力し, 他学会との協体制強化, パンフレットの国際会議場などでの配布, AR 宣伝のためのポスターの制作と配布, ウェブの英語コンテンツ充実, 等を実施する。

IV. 調査・研究(継続事業4) [担当: 企画・広報理事] (定款第4条3号)

1. 調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会, 研究専門委員会による活動を行う。

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	種別
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稲谷龍彦	2020年4月	I種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅 久	2020年4月	I種
遊びとロボット研究専門委員会	橋本秀紀	2017年5月	I種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017年4月	I種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017年4月	I種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017年4月	II種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014年9月	I種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014年8月	II種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	横田 諭	2009年4月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	田原健二	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

(2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
新型コロナウイルス感染症に対する医療現場・生活環境の保全を支援するロボット技術の社会実装調査研究委員会	本田幸夫	2020年9月
アカデミックロボットベンチャー調査研究委員会	岩田君彦	2020年1月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

(3) 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

V. 表彰（継続事業5）[担当：企画・広報理事]（定款第4条4号）

1. 表彰

第39回学術講演会において、学会誌論文賞、Advanced Robotics Paper Awards (Best Paper, Excellent Paper)、実用化技術賞、優秀研究・技術賞、優秀講演賞、研究奨励賞、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞、ロボット活用社会貢献賞および功労賞の授与を行う。さらに、ロボット学の研究を行い、学業成績が優秀な大学学部生、高等専門学校生に対して優秀学生賞の授与を行う。また、FA財団論文賞への候補論文の推薦など、学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる、外部団体からの各賞の推薦依頼やその他の表彰についても、積極的に対応していく。

VI. 国際（継続事業6）[担当：国際理事]（定款第4条5号）

1. 学術講演会における国際セッション

第39回日本ロボット学会学術講演会（信州大学）において、国際セッションを組織する。発表者には、参加登録費を課すが、登壇資格は問わない。また、International Session Best Presentation Awardを選定する。

2. 国際会議関連

本会に係る下記国際会議の共催／協賛、運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

- ・RO-MAN2021 日程：2021年8月8日～8月12日、会場：バンクーバー、カナダ
- ・IROS2021 日程：2021年9月26日～10月3日、会場：ブラハ、チェコ

RO-MAN2021では学際的研究を対象とした賞のスポンサーとなる（現在検討中）。

RO-MAN Steering Committeeには、国際担当理事、事務局長が参加する。

IROS Steering Committeeには、会長、国際担当理事、事務局長が参加する。

IROS2021ではBest Conference Paper Awardのスポンサーとなる。

IROS2021では、主に若手研究者向けのRSJ Tutorialを企画・実施する。また、企業（主に機器展示企業）と参加者のコラボレーションの機会のためのRSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration (RSJ-IAC Lunch)を企画・実施する。

3. その他

- (1) 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施
 - ・対アジア外交における戦略の立案（協調と競争のバランス付け）
 - ・PARSU (Pacific-Asia Robotics Society Union) を介したアジア・オセアニア地域間での連携
 - ・IROS、RO-MAN等の国際会議での日本ロボット学会の広報
 - ・英語による広報活動の展開（ウェブページ、パンフレット）
- (2) 国際委員会の位置づけと活動の見直し
- (3) ロボット教育プログラムの確立とその標準化

VII. 学術講演会（その他事業1）[担当：学術講演会理事]（定款第4条1号）

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第39回学術講演会

期 日：2021年9月8日(水)～11日(土)
会 場：信州大学 上田（繊維学部）キャンパス
実行委員長：山崎公俊（信州大学）

VIII. 講習会（その他事業2）[担当：事業理事]（定款第4条1号）

1. ロボット工学セミナー開講予定

- (1) 第131回「ロボットの作り方～移動ロボットの基本とROSによるナビゲーション実習～」
期 日：2021年1月23日～24日
オーガナイザ：池 勇勲（北陸先端科学技術大学院大学）、ラミレス イクシエル（産業技術総合研究所）
- (2) 第132回「視覚と言葉を通じたロボットとの共同作業を目指して」
期 日：2021年2月17日
オーガナイザ：牛久祥孝（OSX/Ridge-i）
- (3) 第133回「こんなときこそ、ロボットーポスト・コロナ社会で活躍するロボットと人とのリレーションシップ」
期 日：2021年4月（予定）
オーガナイザ：廣川潤子（東芝）

(4) 第134回「ロボットのための画像処理技術」

期 日：2021年5月（予定）
オーガナイザ：竹村憲太郎（東海大学）

(5) 第135回「スポーツとロボット技術」

期 日：2021年7月（予定）
オーガナイザ：西川 颯（東京大学）

(6) 「サービスロボットと安全性」

期 日：2021年秋（予定）
オーガナイザ：打田正樹（鈴鹿工業高等専門学校）

(7) 「インフラ維持管理とロボット技術」

期 日：2021年秋～冬（予定）
オーガナイザ：工藤 拓（富士通研究所）

(8) 「組立動作の自動制御技術」

期 日：2021年秋～冬（予定）
オーガナイザ：沖賢太郎（オムロン）

(9) 「ロボットの作り方～移動ロボットの制御とROSによる動作計画実習～」

期 日：2022年1月（予定）
オーガナイザ：野口宏明（パナソニックアドバンステクノロジー）
ガルシア グスタボ（奈良先端科学技術大学院大学）

2. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。国内共催事業（予定を含む）：

- (1) 第26回ロボティクスシンポジウム
期 日：2021年3月16日(火)～17日(水)
会 場：オンライン
実行委員長：栗田雄一（広島大学）
- (2) ロボカップジャパンオープン 2021
期 日：未定、開催地：未定
- (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2021
期 日：未定、開催地：未定
- (4) 第20回レスキューロボットコンテスト
期 日：未定、開催地：未定

IX. 法人処理 [担当：庶務理事]

1. 第11回定時総会

会 期：令和3年3月23日（予定）
会 場：ロボット学会事務局＋オンライン開催（予定）

2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月予定)
会誌編集委員会	永谷圭司	大川一也
欧文誌委員会	武居直行	下田真吾
事業計画委員会	新妻実保子	鳥 圭介
国際委員会	田中文英	ベンチャー ジェンチャン
研究協議会	松野文俊	次期副会長
学術講演会実行委員会	浅田 稔 (38回)	山崎公俊 (39回)
表彰委員会	村上弘記	次期副会長
学会誌論文賞選考小委員会	松野文俊	次期副会長
Advanced Robotics Paper Awards 選考小委員会	村上弘記	次期副会長
実用化技術賞選考小委員会	村上弘記	次期副会長
功労賞選考小委員会	村上弘記	次期副会長
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	松野文俊	次期副会長
学術講演会関連賞選考小委員会	村上弘記	次期副会長
ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	村上弘記	次期副会長
外部表彰選考小委員会	松野文俊	次期副会長
体制整備委員会	浅田 稔	次期会長

アドバイザーボード	浅田 稔	次期会長
コンプライアンス委員会	浅田 稔	次期会長
情報システム管理委員会	蓮沼仁志	服部 誠
学術講演会管理委員会	村上弘記	次期副会長
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	岡田 聡	植木美和
学会価値委員会	浅田 稔	次期会長
IRH 実行委員会	松野文俊	次期副会長

3. 役員の選出

令和3年度の理事・監事を選出する。

4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

5. 学会の基盤強化

新規委員会体制の下に、会員の拡大、論文発表の活性化を目指すことを基本に活動を実施する。外部への働き掛けとして、産業貢献・異業種連携活動の他、昨年に引き続き、広報活動全般の強化を図る。特に、HP・学会誌等のコンテンツ強化を引き続き推進し、学会の知名度向上を図る。また、非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動の継続、学生会員が会員継続したくなる価値の創出と、若年層への啓発活動も継続実施する。

6. 学会サービスの向上

学会価値委員会を中心に、学会ホームページのコンテンツの充実、情報サービスの拡大を、新型コロナ禍における生活様式の変化を考慮しつつ継続して推進し、会員サービスの質の向上を図るとともに、学会の社会的価値の向上を図る。

7. 規約等の制定・整備

体制整備委員会、コンプライアンス委員会にて、学会運営の効率化・適正化、会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を引き続き実施していく。

8. 将来検討

広報活動のフィードバックを反映し、学会価値委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。

9. 事務局運営

体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

【報告資料 2】

令和3年度予算計画

収支予算書(損益ベース)令和3年1月1日～令和3年12月31日(公益事業)								
科 目	実施事業等会計							
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	小計 (A)
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入金金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入金金								
学生会員受取入金金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	11,600,000	2,374,000	0	0	0	0	13,974,000
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇談会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演概要集 広告料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		3,723,000						3,723,000
会誌広告料事業収益		6,460,000						6,460,000
会誌頒布事業収益		1,417,000						1,417,000
編集料事業収益			2,374,000					2,374,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑収益								
経常収益計	0	11,600,000	2,374,000	0	0	0	0	13,974,000
(2) 経常費用								
事業費	1,590,000	29,178,010	5,679,000	576,000	8,145,865	2,186,000	0	47,334,875
給料手当	0	5,453,835			4,200,565			9,654,400
臨時雇賃金	100,000	37,000						137,000
退職給付費用	0	375,700			265,200			640,900
福利厚生費	0	1,082,475			764,100			1,846,575
旅費交通費	47,000	285,000		10,000	90,000	1,051,000		1,483,000
通信運搬費	13,000	3,476,000	22,000		67,000	24,000		3,602,000
消耗什器備品費		75,000	75,000					150,000
消耗品費	80,000	331,000	13,000		388,000	40,000		852,000
印刷製本費		11,165,000		10,000				11,175,000
賃借料	18,000				24,000			42,000
諸謝金	140,000			215,000				355,000
租税公課		576,000						576,000
支払負担金	400,000	25,000	1,800,000	15,000	37,000			2,277,000
委託費	792,000	6,285,000	3,769,000	326,000	431,000			11,603,000
雑費		11,000			1,879,000	1,071,000		2,961,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								

消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	1,590,000	29,178,010	5,679,000	576,000	8,145,865	2,186,000	0	47,354,875
評価損益等調整前 当期経常増減額	-1,590,000	-17,578,010	-3,305,000	-576,000	-8,145,865	-2,186,000	0	-33,380,875
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-1,590,000	-17,578,010	-3,305,000	-576,000	-8,145,865	-2,186,000	0	-33,380,875
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	1,590,000	17,578,010	3,305,000	576,000	8,145,865	2,186,000		33,380,875
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民 税及び事業税								
当期一般正味 財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0

収支予算書(損益ベース)令和3年1月1日～令和3年12月31日(その他事業)

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0		0	0
特定資産受取利息							0
受取入金	0	0	0	0	100,000	0	100,000
正会員受取入金					100,000		100,000
学生会員受取入金					0		0
受取会費	0	0	0	0	41,752,000	0	41,752,000
正会員受取会費					29,690,000		29,690,000
学生会員受取会費					2,542,000		2,542,000
賛助会員受取会費					9,520,000		9,520,000
事業収益	22,260,000	4,890,000	0	27,150,000	0	0	41,124,000
申込金事業収益							
参加費事業収益	16,160,000			16,160,000			16,160,000
懇談会参加費事業収益	3,040,000			3,040,000			3,040,000
展示料事業収益	2,710,000			2,710,000			2,710,000
講演料事業収益	350,000			350,000			350,000
セミナー参加費事業収益		4,890,000		4,890,000			4,890,000
会誌掲載料事業収益							3,723,000
会誌広告料事業収益							6,460,000
会誌頒布事業収益							1,417,000
編集料事業収益							2,374,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	12,960,000	0	12,960,000
受取利息					14,000		14,000
雑収益					12,946,000		12,946,000
経常収益計	22,260,000	4,890,000	0	27,150,000	54,812,000	0	95,936,000
(2) 経常費用							
事業費	12,155,765	4,417,000	0	16,572,765	0	0	63,927,640
給料手当	704,990			704,990			10,359,390

臨時雇賃金	992,000	120,000		1,112,000		1,249,000	
退職給付費用	22,100			22,100		663,000	
福利厚生費	63,675			63,675		1,910,250	
旅費交通費	500,000	400,000		900,000		2,383,000	
通信運搬費	100,000	33,000		133,000		3,735,000	
消耗什器備品費						150,000	
消耗品費	150,000	1,812,000		1,962,000		2,814,000	
印刷製本費	3,500,000			3,500,000		14,675,000	
賃借料	1,200,000	200,000		1,400,000		1,442,000	
諸謝金	150,000	1,750,000		1,900,000		2,255,000	
租税公課	1,161,000	62,000		1,223,000		1,799,000	
支払負担金	2,211,000	24,000		2,235,000		4,512,000	
委託費	1,400,000	16,000		1,416,000		13,019,000	
雑費	1,000			1,000		2,962,000	
管理費	0	0	0	0	31,349,360	0	31,349,360
給料手当					9,223,610		9,223,610
臨時雇賃金					3,776,000		3,776,000
退職給付費用					221,000		221,000
福利厚生費					1,136,750		1,136,750
会議費					100,000		100,000
旅費交通費					320,000		320,000
通信運搬費					900,000		900,000
消耗什器備品費							
消耗品費					359,000		359,000
印刷製本費					417,000		417,000
光熱水料費					373,000		373,000
賃借料					7,524,000		7,524,000
保険料					6,000		6,000
支払手数料					1,037,000		1,037,000
諸会費					342,000		342,000
諸謝金					1,020,000		1,020,000
租税公課					67,000		67,000
委託費					3,447,000		3,447,000
雑費					1,080,000		1,080,000
経常費用計	12,155,765	4,417,000	0	16,572,765	31,349,360	0	95,277,000
評価損益等調整前 当期経常増減額	10,104,235	473,000	0	10,577,235	23,462,640	0	639,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	10,104,235	473,000	0	10,577,235	23,462,640	0	639,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-10,104,235	-473,000		-10,577,235	-22,803,640		0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	639,000	0	639,000
法人税、住民 税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味 財産増減額	0	0	0	0	569,000	0	569,000

【第3号議案】

令和3年度役員の内

日本ロボット学会定款第5章、役員選任規程および役員候補推薦規程に従い、下表右列の14名を令和3年新役員として推挙したい。

任期	令和3年度役員		
	平成31年3月～ 令和3年3月	令和2年3月～ 令和4年3月	令和3年3月～ 令和5年3月
理事	浅田 稔		村上弘記
理事	村上弘記		菅野重樹
理事	松野文俊		橋本浩一
理事	岡田 聡	植木美和	小椋 優
理事	細田祐司		
理事	蓮沼仁志	服部 誠	伊藤真平
理事	太田祐介	足立 勝	遠藤 玄
理事	永谷圭司	大川一也	前田雄介
理事	武居直行	下田真吾	山本 江
理事	新妻実保子	島 圭介	横田 論
理事	山崎公俊		山崎公俊
理事	大野和則*		太田 順
理事	田中文英	ベンチャー ジェンチャン	中西 淳
理事	長井隆行		田原健二
監事	澤 俊裕	松日楽信人	浅田 稔

*任期途中退任(令和2年3月～令和3年3月)